

平成 29 年 2 月 28 日

教育長 答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問）生徒指導や進路指導で不適切な対応が生じた原因について

教育委員会が昨年 12 月の文教委員会へ提出した資料には、「一人ひとりの生徒の心を育て、生徒の心に寄り添い、将来、社会において自己実現できるような指導・支援を行うという視点が欠落していた」と記載しているが、その原因については全く触れていない。

そこで、教育活動における最も重要な視点が欠落していた原因をどのように分析しているのか、教育長に伺う。

（答）

進路指導においても生徒指導においても、生徒の指導に当たっては、教職員が生徒一人一人の心に寄り添い、可能性を伸ばし、自己実現を支援する視点をしっかりと持つことが重要であると認識しております。

当該校において、そういった視点が欠落していた原因といたしましては、まず、進路指導におきましては、

- ・ キャリア教育の視点に立った進路指導が1年時から系統的、計画的、組織的に行われていなかったこと
- ・ 校務運営組織に進路指導部が位置付いておらず、進路指導主事が機能していなかったこと
- ・ 日頃から、生徒の悩みや不安等を解決できるように支援する進路相談ができていなかったこと

が主なものと考えております。

また、生徒指導におきましては、

- ・ 学校をあげて組織的に取り組む体制になっていなかったこと
- ・ ルールを守らせる指導を徹底しないと学校が崩れてしまうといった意識が強くあったこと
- ・ 問題行動の解決を重視するあまり、対症療法的な対応にとどまっていたこと

・ 推薦・専願の可否を、生徒を管理する手段としていたこと  
などが主なものと考えております。

こうしたことから、当該校におきましては、組織的な進路指導体制や生徒

指導体制の構築がなされていなかったことや、進路指導や生徒指導の本来の意義を踏まえた指導について、教職員への徹底がなされていなかったことなど、校長の学校経営そのものに課題があったものと認識いたしております。